

組織 会長 永井孝久(山瀬小学校)
副会長 嘉藤貴子(鷹巣南中学校)
事務局 佐々木亜希子(大館東中学校)
研究部 工藤明美(鷹巣中学校)
会計 山崎真紀子(比内中学校)

藤島聖人(綴子小学校)
コリガン麻衣(大館第一中学校)
三澤正敏(山瀬小学校)
佐々木由美(北陽中学校)

主な事業

大北造形研究会総会(4/13)

会場：田代公民館

造形セミナーに参加(7/26)

※大北造形研実技研修会を兼ねる

会場：秋田県総合教育センター

秋田県児童生徒美術展地区審査会(11/24)

素描集「北の造形」第50集審査会

及び研修会

会場：田代公民館

第40回 絵を見て語る会(1/19)

素描集「北の造形」第50集発行・配布

大北造形研究会最終理事会

会場：田代公民館

研究会の記録

○秋田県児童生徒美術展地区審査会及び素描集「北の造形」審査会について(11/24 田代公民館)

例年通り秋田県児童生徒美術展の地区審査会を行った。会員数の減少に伴い、地区審査会の審査員の数も年々減りつつある。入賞の基準は、「自分の気持ちを素直に表現し、その子ならではの工夫が見られること」である。作品に文章での説明がある場合、子どもの思いは読み取りやすいといえるが、大半の作品には説明はなく、色や形、技法や材料の組み合わせなどから我々が子どもの思いを想像しなくてははいけない。いかにその思いを感じ取れるか審査員としての力量が問われるため、今後も研鑽を積む必要を感じた。

素描集「北の造形」コンクールは今年で50回目を迎えた。レベルの高い作品が出そろうため、全体の3割にあたる入賞作品を選ぶことは困難を極める。今年は素描のあり方について議論が交わされた。素描とは、「単一色の線もしくは点で、物の形象をあらわした絵」(広辞苑)となっているが、鉛筆や木炭などは素描集の印刷に向かないため使用できないという独自の制約がある。小学校の作品は純粋に形にこだわったものであるが、中学校の作品になると、形だけでなく立体感を表すための陰影が描き込まれた作品が主流になってくる。いわゆる、アカデミックな「デッサン」に近い表現を、黒ボールペンなどの描き直しがきかない描画材で行うという高度な技術で描かれた作品が選ばれている。審査基準は「自分とのつながりを大切にし、思いを素直に表現している、意欲的に取り組み、楽しさが感じられる、のびのびとした線で、勢いが感じられる」であり、審査員は常にこれを意識しながら、単に技術的に優れたものに入賞作品が偏らないようにしなくてはならないと再確認した。



[小学校高学年の部での審査風景]